

第三十八回古民家歴史部会歴史探訪

「横浜開港150周年海防三浦半島の歴史を語る」

原本 朗 起稿

「I」久里浜新田開発・開国橋・ペリー公園・久里浜花の国コース

平成21年4月2日（木）（集合；京急久里浜駅 改札前10時厳守）

行程；京急久里浜駅→夫婦橋・内田新田開発記念碑→開国橋→ペリー通り→ペリー公園・記念館→住吉神社→伝福寺→久里浜花の国→天神社→久里浜駅着。

「I」久利浜新田開発・開国橋・ペリー公園・記念館・久里浜花の国

行程；京急久里浜駅→夫婦橋・内田新田開発記念碑→開国橋→ペリー通り→ペリー公園・記念館→住吉神社→伝福寺→久里浜花の国→天神社→久里浜駅着。

- 1・夫婦橋（先代の夫婦は「神奈川橋100選」・平成8年架替・舟倉地名三浦一族の水軍舟たまり）
約340年前（1667）内川新田開発工事で造られた水門を端緒とする。夫婦橋名は、昔は、中州に両側から二つの橋が夫婦のように仲良く架かっていた事からの名。
内川新田開発記念碑（夫婦橋のたもと・2. 1m笠塔婆型、裏面南無阿弥陀仏）
新田開発に当たり、水門が度々破れ、8ヶ年の苦勞と神仏の加護によって完成したと言う。
砂村新左衛門政次（大阪又は越前出身と言う）江戸幕府の許可を得て、万治3年（1660）から工事を開始し、寛文7年（1667）完成した。此の地は葦原・沼地で干満による海水の浸水もあり、排水に難渋し工事も困難を伴った。旅人が人柱になった伝説も生まれる。新左衛門は横浜吉田新田開発の経験を生かし、3つの川を1つにして海へ注ぐように防波堤を完成させ、干潮時には開き、満潮時には閉じる水門の「かけ戸」で水量を調節する橋（夫婦橋）を造り、新田を完成させた。完成後は半島最大の水田地帯となり、万治3年には360石だったが、延宝元年（1673）には542石の検地を受けるまでになった。新左衛門の墓転々としたが正業寺（浄土宗）にある。
- 2・開国橋（暴れ川平作川源流大楠山とし東京湾に注ぎ込む全長12km半島一番大きな川に架かる一番河口の橋・現橋は昭和52年3月竣工4代目）
ペリーが黒船を率いて、日本の鎖国の扉を叩いた時、その第一歩を久里浜に印した。その上陸地点の近い事からこの名が。
- 3・ペリー公園・資料館（昭和62年1987横須賀市政80周年記念建設・伊藤博文の筆記念碑「明治34年1901米友協会建立、北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」（横須賀名所）
この公園はペリーの日本上陸を記念して造られた。ペリー提督；（1794・4・10，寛政6・マシュー・カルブレイス・ペリー・父クリストファーレイモンド，母セアラ・ウオーレス・アレキサンダーの三男アメリカニューポート生）父海の男アメリカ海軍創設期商船船長活躍，二人の兄も海軍軍人。ペリーが海軍士官候補生15歳誕生日前。16歳秋，ジョン・ロジャーズ提督下新造船プレジデント号乗組員。米英戦争初陣，兄オリバー活躍「ドント・ギブアップ・ザ・シップ」合言葉不屈の建国精神で戦ったと言う。
1814年ジェイン・スライデルと結婚・1830年蒸気軍艦必要性を説く「蒸気海軍の父」
・1852年東インド艦隊司令官任命・通商と太平洋上石炭補給拠点目的「日本開国」任務，
11月24日ミシシッピー号東海岸ノーフォークを出航，1853年4月7日香港到着，蒸気船サスケハナ号と帆走軍艦サラトガ号，プリマス号と合流，那覇経由一路浦賀へ向かう。1853年7月8日（金）（嘉永6年6月3日）午後4時過ぎ浦賀沖に碇を降ろした。
サスケハナ号・ミシシッピー号・プリマス号・サラトガ号の4隻が，アメリカ13代大統領M・フィルモアの国書を持って浦賀の鴨居沖に投錨した。
- 4・住吉神社（古くは栗濱明神，住吉大社・祭神中筒男命，金山彦命，天照大神，表筒男命，素盞鳴尊・例祭）
寿永元年（1182）源頼朝に長男の頼家が誕生した時，佐原十郎義連によって神馬が奉納された。治元年（1185）には頼朝と政子が参詣したと伝う。
- 5・伝福寺（浄土宗・本尊阿弥陀三尊，三浦観音札所12番千手観音菩薩・地藏堂三浦地藏第7番札所地藏菩薩三浦一番大きい「たこ地藏」）
開祖は鎌倉，安養院15代院主が大永7年（1527）に隠居し，当地に居を構えたことに始まる。愛称「たこ地藏」（多幸）は，毒を吸い取る有りがたい地藏で，縁起良い地藏と言う。
- 7・くりはま花の国（入園無料・コスモス広場2万㎡130万本・ポピー園・アスレチック広場・冒

険ランド・足湯無料・ハーブ園130種3万本・展望台・県の木広場・花トレ（他）

ポピー4～6月・コスモス9～10月・ラベンダー6～7月・ローズマリー11～3月・カモマイル4～6月・チューリップ4～5月・セイジ類7～11月・スイセン12～1月・椿12～4月。

8・天神社（学芸の神・祭神菅原道真公・例祭）

入海・芦原であった久里浜中央部を流れる内川（現平作川）流域一帯を新田開発を志した砂村新左衛門が、前から崇敬していた摂津国西成郡上福島村天満宮（現大阪市福島天満宮）から勧請し、万治3年（1660）6月に久里浜村八幡（現天神屋敷）神殿鎮護の神社として祀ったのが始まり。

ヤドリギ寄木，寄生木，ヤドリギ科常緑低木エノキやケヤキ。



